

滿鐵密檔

滿鐵與勞工（第二輯）2

遼寧省檔案館編
廣西師範大學出版社

目 录

劳务统制政策

1	关于满洲劳动统制问题的根本策略	经济调查会第一部第四班	1
	一九三三年四月		
2	与《劳动统制要纲案》相关的特务部联合研究会问题	经济调查会新京出張所	
	官崎正义↓经济调查会委员长	一九三三年九月十六日	6
3	管制国民劳动者的必要性	经济调查会第一部第四班	8
4	实施劳动许可票制问题	满铁经济调查会田所委员↓关东军特务部第五委员会 植木委员	11
	一九三四年三月九日		
5	劳动者登记章程	首都警察厅	12
	一九三四年三月		
	附件：实施劳动者登记制度理由书		13
6	送交有关满洲国限制劳动者入国问题协议事项	关东军参谋长西尾寿造↓ 满铁副总裁八田嘉明	15
	一九三四年四月十一日		
7	劳动者指纹管理法案	经济调查会	17
	一九三四年四月		
8	劳动统制方策	满铁经济调查会	22
	一九三四年十一月		
9	劳动统制法要领	经济调查会第一部	23
	一九三四年十一月		
10	协商有关外国工人管理问题的根本方针	经济调查会第一部第四班	26
	一九三四年十二月		

11	限制华人劳动者入国数量问题(劳动统制委员会)	大内次男	〔一九三四年〕	55	
12	关于坚决实行苦力入国限制问题	审查员大内次男↓审查役	一九三五年一月二十六日	61	
	附件：关于农业方面苦力入国许可数计算依据			70	
13	外国劳动者入满管理法令的审议	经济调查会第五部劳动班	一九三五年一月	72	
14	对调查有关劳动管制方面资料问题的答复	满铁经济调查会委员长河本大作↓关东军 参谋部第三课长原田熊吉	一九三五年二月十二日	93	
15	关于研究满洲人劳动者登记制度问题的中间报告	满铁经济调查会第五部劳动班			
			一九三五年八月	94	
16	满洲劳动统制方策	〔满铁经济调查会	一九三五年十一月〕	106	
17	关于协商劳动管制事务的报告	满铁经济调查会第五部劳动班主任↓ 经济调查会委员长	一九三五年十二月四日	110	
18	矿工监督制度	〔劳动时报第六六号节选	满铁经济调查会	一九三五年十二月〕	113
19	关于决定冀东工人优先办理签证方法问题的报告	资料室调查班主查↓ 产业部长	一九三七年一月七日	122	
	附件：冀东工人优先办理签证要领			123	
20	满洲劳工协会法(敕令第四五六号)		一九三七年十二月十四日	125	
21	关于发放劳动票问题(奉天产业经济讲话第一辑)	奉天商工公会	〔一九三八年七月二十五日〕	129	

22	召开根据满洲国民生部第六十三号令实施的劳动登记问题协商会	
	总裁室人事课长↓调查部长	一九三八年七月二十五日
	附件：· 会社从事员办理劳动登记方法（案）	·····
23	* 会社从事员依据满洲国暂行劳动票发放规则进行劳动登记的方法、记载要项、范围等问题的文件（四件）	满铁总裁室人事课长↓
	调查部长	一九三八年八月五日至十二月
24	劳动统制法（敕令第二六八号）	一九三八年十二月一日
25	全国矿山劳务会议经过报告	新京支社业务课长↓调查部次长
	一九三九年十月三十一日	·····
	附件：· 冬季城市集散劳动者选拔要领	一九三九年十月
	· 暂行城市募集机构及其运营要领	·····
	· 选拔冬季工程中止或结束而离职劳动者就业要纲	·····
	· 选拔冬季工程中止或结束而离职劳动者就业要纲处理要领	·····
	· 选拔业主请求保留的劳动者就业要领	·····
26	满洲劳工协会业务方针	（一九三九年）
27	修正《劳动统制法》（敕令第二五二号）	一九四一年十月二十二日
28	劳务兴国会法（敕令第二五三号）	一九四一年十月二十二日
29	劳动者紧急就业规则（民生部令第二号）	一九四二年二月九日
200		·····
193		·····
190		·····
183		·····
180		·····
179		·····
173		·····
172		·····
170		·····
165		·····
161		·····
147		·····
145		·····
144		·····

30 工资管制规则(民生部令第十九号) 一九四二年四月一日…………… 207

31 在满洲的华北劳动者及劳动管制问题(调查报告第三百十号)
横滨正金银行调查部 一九四二年五月十五日…………… 219

32 劳务兴国会是在实行工资管制时的任务问题 满洲劳务兴国会理事长↓
各省劳务兴国会理事长 一九四二年六月十三日…………… 255

33 华北劳工协会发给程仁贵(山东人)的劳工证 一九四二年…………… 259

劳务机构

34 劳动统制委员会的设置 关东军特务部 一九三三年九月五日…………… 260

35 劳动统制委员会组建完成 关东军参谋长小矶国昭↓

满铁经调会委员长十河信二 一九三三年十月二十日…………… 262

36 第一次劳动统制委员会 「一九三四年一月九日」…………… 264

37 第一次劳动统制委员会出席报告 极秘 审查员大内次男 一九三四年一月十八日…………… 269

附件:劳动统制委员会出席报告 审查员大内次男 一九三四年一月九日…………… 270

38 第二次劳动统制委员会 关东军特务部长小矶国昭↓

满铁经济调查会田所耕耘 一九三四年三月六日…………… 290

39 第二次劳动统制委员会出席报告 「满铁经济调查会 一九三四年三月十二日」…………… 293

40 第三次劳动统制委员会会议事 「满铁经济调查会 一九三五年二月十三日」…………… 299

41	第三次劳动统制委员会议事报告	「满铁经济调查会 一九三五年二月十三日」	305
42	第四次劳动统制委员会决议事项报告书	极秘 满铁经济调查会 一九三六年一月二十五日	310
43	第四次劳动统制委员会议事报告	极秘 审查员大内次男↓审查役 一九三六年二月六日	331
44	*关于满洲国劳动者统制会社问题的文件		
	(1)关于满洲国劳动者统制会社问题的照会	东京支社业务课长↓	
		产业部资料室主事 一九三七年二月十日	335
	(2)关于满洲国劳动者统制会社问题的答复	产业部资料室主事↓	
		东京支社业务课长 一九三七年二月十六日	336
45	关于设立满洲劳工协会问题	极秘 关东军参谋部第三课高级参谋竹下义晴↓	
		满铁经调会副委员长奥村慎次 一九三七年八月十八日	338
	附件：满洲劳工协会（暂称）设立要纲（案）		340
		满洲劳工协会设立委员名簿	342
46	推荐满洲劳工协会设立委员及干事问题	满铁总裁松冈洋右↓	
		满洲国民政部次长官泽惟重 一九三七年九月八日	345
47	满洲劳工协会设立准备委员及干事人名簿	秘 满洲国民生部社会司 一九三七年九月	346
48	满洲劳工协会基金问题	满铁产业部长↓总裁室庶务课长 一九三七年十一月二十四日	351
	附件：满洲劳工协会设立准备委员长官泽惟重给满铁新京支社社长的文书		
		一九三七年十一月八日	356

- 满铁新京支社长给产业部长的文书 一九三七年十一月九日……………
- 49 满洲劳工协会设立计划书 秘 满洲劳工协会设立准备委员会干事 一九三七年……………
- 50 设置山海关劳务办事处问题（国务院第三〇九号、民生部训令第二三二二号）
一九四二年十二月二十六日……………
- 51 国境地带的劳务机构及其机能调查「一九四三年二月 山海关铁道警护队」……………
- 52 满洲劳工协会设立计划参考资料 秘……………

强制征用劳工（一）

- 53 送交一九三七年十一月及十二月份出入满洲国的外国劳动者统计表 秘
治安部警务司长↓满铁产业部 一九三八年三月二十九日……………
- 54 河北山东各省市入满劳动者趋势图表「一九四〇年」……………
- 55 入满劳动者统计年报节选 「满洲国民生部劳务司 满洲兴国会 一九四一年」……………
- 56 一九四〇年度国内劳动者募集统计年报 极秘 满洲劳工协会「一九四一年」……………
- 57 入满苦力与华北经济（满洲劳工协会劳工资料第六辑：满洲的劳动问题与苦力）
「一九四一年一月十一日」……………

目 録

労務統制政策

1	満洲労働統制問題に関する根本策 経済調査会第一部第四班 昭和八年四月	1
2	『労働統制要綱案』に関する特務部聯合研究会の件 経済調査会新京出張所宮崎正義↓ 経済調査会委員長 昭和八年九月十六日	6
3	労働者の国民的統制の必要性 経済調査会第一部第四班 昭和八年十月	8
4	労働許可票制実施に関する件 満鉄経済調査会田所委員↓関東軍特務部第五委員会植木委員 昭和九年三月九日	11
5	労働者登録章程 首都警察庁 康德元年三月 別紙：労働者登録制度実施の理由書	12
6	満洲国に於る労働者入国制限に関する打合事項送付の件 関東軍参謀長西尾寿造↓ 満鉄副総裁八田嘉明 昭和九年四月十一日	15
7	労働者指紋管理法案 経済調査会 昭和九年四月	17
8	労働統制方策 経済調査会 昭和九年十一月	22
9	労働統制法要領 経済調査会第一部 昭和九年十一月	23
10	外国労働者取締に関する根本方針の打合 経済調査会第一部第四班 昭和九年十二月	26
11	華人労働者入国制限数（労働統制委員会）ノ件 大内次男 「昭和九年」	55

12 苦力入国制限断行ニ関スル件 審査員大内次男↓審査役

昭和十年一月二十六日.....61

別紙：農業関係苦力入国許可数算出根拠ニ就テ.....70

13 外国労働者入滿取締法令の審議 經濟調査会第五部労働班 昭和十年一月.....72

14 労働統制に関する資料調査の件(回答) 滿鉄經濟調査会委員長河本大作↓.....93

關東軍參謀部第三課長原田熊吉 昭和十年二月十二日.....93

15 滿洲人労働者登録制度研究に関する中間報告 經濟調査会第五部労働班.....94

昭和十年八月.....94

16 滿洲労働統制方策 「滿鉄經濟調査会 昭和十年十一月」.....106

17 労働統制事務打合に関する報告の件 滿鉄經濟調査会第五部労働班主任↓經濟調査会委員長.....110

昭和十年十二月四日.....110

18 鉦夫監督制度 「勞務時報第六六号抜刷 滿鉄經濟調査会 昭和十年十二月」.....113

19 冀東労働者優先査証ニ関スル取扱方決定ノ件報告 資料室調査班主査↓産業部長.....122

昭和十二年一月七日.....122

別紙：冀東労働者優先査証取扱要領.....123

20 滿洲勞工協会法(勅令第四五六号) 康徳四年十二月十四日.....125

21 労働票の発給に就て(奉天産業經濟講話第一輯) 奉天商工公会.....129

「昭和十三年七月二十五日」.....129

22	滿洲国民生部令第六十三号ニ依ル労働登録ニ関スル打合会議開催ノ件	總裁室人事課長↓	144
	調査部長	昭和十三年七月二十五日	144
	別紙：会社従事員ノ労働登録取扱方（案）	145
23	* 滿洲国暫行労働票発給規則ニ依ル会社従事員ノ労働登録方法、記入要領、範圍ニ関スル件（四件）	147
	滿鉄總裁室人事課長↓調査部長	昭和十三年八月五日、十二月	147
24	労働統制法（勅令第二六八号）	康徳五年十二月一日	161
25	全国鉱山労働會議經過報告ノ件	新京支社業務課長↓調査部次長	165
	昭十四年十月三十一日	170
	別紙：冬期都市集散労働者斡旋要領	康徳六年十月	172
	暫行都市募集機構並其ノ運営要領	173
	冬期工事休止又ハ終了ニ依ル離職労働者就労斡旋要綱	179
	冬期工事休止又ハ終了ニ依ル離職労働者就労斡旋要綱ノ処置要領	180
	業者保有依頼ニ依ル労働者就労斡旋要領	183
26	滿洲劳工協會業務方針	「康徳六年」	190
27	労働統制法修正之件（勅令第二五二号）	康徳八年十月二十二日	193
28	労働興国会法（勅令第二五三号）	康徳八年十月二十二日	200
29	労働人緊急就労規則（民生部令第二号）	康徳九年二月九日	207
30	賃金統制規則（民生部令第十九号）	康徳九年四月一日	207

- 31 滿洲に於ける北支労働者及労働統制に就て（調査報告第三百十号） 横濱正金銀行調査部
昭十七年五月十五日……………219
- 32 賃金統制規則施行二伴フ労働興国会ノ任務ニ関スル件 滿洲労働興国会理事長↓
各省労働興国会理事長 康徳九年六月十三日……………255
- 33 華北劳工協会ヨリ程仁貴宛ノ劳工証（故郷ハ山東） 民國三十一年……………259
- 労働機構**
- 34 労働統制委員会設置 関東軍特務部 昭和八年九月五日……………260
- 35 労働統制委員会委員編成完了の件 関東軍參謀長小磯国昭↓滿鉄経調会委員長十河信二
昭和八年十月二十日……………262
- 36 第一回労働統制委員会 「昭和九年一月九日」……………264
- 37 第一回労働統制委員会出席報告ノ件 極秘 審査員大内次男↓審査役 昭和九年一月十八日……………269
- 別紙：労働統制委員会出席報告 審査員大内次男 昭和九年一月九日……………270
- 38 第二回労働統制委員会 関東軍特務部長小磯国昭↓經濟調査会田所耕耘
昭和九年三月六日……………290
- 39 第二回労働統制委員会出席報告 「滿鉄經濟調査会 昭和九年三月十二日」……………293
- 40 第三回労働統制委員会議事 「滿鉄經濟調査会 昭和十年二月十三日」……………299
- 41 第三回労働統制委員会議事報告ノ件 「滿鉄經濟調査会 昭和十年二月十三日」……………305

42	第四回労働統制委員会決議事項報告書	極秘	滿鉄經濟調査会	昭和十一年一月二十五日	310
43	第四回労働統制委員會議事報告ノ件	極秘	審査員大内次男↓審査役	昭和十一年二月六日	331
44*	滿洲国労働者統制会社ニ関スル件				
	(1) 滿洲国労働者統制会社ニ関スル照会		東京支社業務課長↓産業部資料室主事		
			昭和十二年二月十日		335
	(2) 滿洲国労働者統制会社ニ関スル回答		産業部資料室主事↓東京支社業務課長		
			昭和十二年二月十六日		336
45	滿洲労働協会設立ニ関スル件	極秘	関東軍参謀部第三課高級参謀竹下義晴↓		
			滿鉄経調会副委員長奥村慎次	昭和十二年八月十八日	338
	別紙：滿洲労働協会（仮称）設立要綱（案）				340
	滿洲労働協会設立委員会名簿				342
46	滿洲労働協会設立委員並幹事推薦ノ件		滿鉄總裁松岡洋右↓滿洲国民政部次長宮沢惟重		
			昭和十二年九月八日		345
47	滿洲労働協会設立準備委員並幹事人名簿	秘	滿洲国民生部社会司	康德四年九月	346
48	滿洲労働協会基本金ニ関スル件		滿鉄産業部長↓總裁室庶務課長	昭和十二年十一月二十四日	351
	別紙：滿洲労働協会設立準備委員長宮沢惟重ヨリ滿鉄新京支社長宛ノ文書				
			康德四年十一月八日		356
	滿鉄新京支社長ヨリ産業部長宛ノ文書				
			昭和十二年十一月九日		358

49 滿洲勞工協會設立計畫書 秘 滿洲勞工協會設立準備委員會幹事 康德四年…………… 359

50 關於山海關勞務辦事処設置之件（國務院訓令第三〇九号、民生部訓令第二三二号）

康德九年十二月二十六日…………… 395

51 国境地帯ノ勞務關係機構並ニ機能調査 「康德十年二月 山海關鐵道警護隊」…………… 396

52 滿洲勞工協會設立計畫參考資料 秘…………… 398

強制征用勞工（一）

53 康德四年十一月及十二月中入出国外國勞働者統計表送付ノ件 秘 治安部警務司長↓滿鐵産業部

康德五年三月二十九日…………… 423

54 河北山東各省県別入滿勞働者趨勢図表 「康德七年」…………… 432

55 入滿勞働者統計年報抜刷 「滿洲国民生部勞務司 滿洲興国会 康德八年」…………… 434

56 康德七年度国内勞働者募集統計年報 極秘 滿洲勞工協會 「康德八年」…………… 442

57 入滿苦力と北支經濟（滿洲勞工協會勞工資料第六輯：滿洲の勞働問題と苦力）

〔昭和十六年一月十一日〕…………… 489

滿洲勞働統制問題に關する根本策

昭和八年四月
經濟調查會第一部第四班

内 容

- 一、前 提
- 二、根 本 方 策
- 三、要 領
- 四、前 提 對 策
- 五、前 提 對 策 の 必 要 性

一、前 提

在滿邦人の企業家が單なる經營的主觀を離れ國策的立場から支那人勞働者を觀る場合、如何なる管理方法を採るを以て得策とすべきかに就ての意見は二、三に止らざるも其の中代表的なりと目さるゝものに

一、強度の賃銀搾取を行ひ利潤率の高度化を圖るを以て有利なりとす

二、目前の利潤率其のものは餘り問題とせず一般支那人大衆の購買力を増大せしめ以て其の間我國の生産品をより多く消費せしむる要素を附與するため採算可能の範圍に於て成るべく高額の賃銀を支給する必要あり
と云ふが如き二つの相異なる意見がある

而して第一項は目前の利潤を主眼とするものである丈に實行性强きも、第二項は遠い將來を問題として居るが故に、實行性に乏しく、今日迄多くの企業家が踏み來れる所を見るに其の殆んど總てが第一項中心主義を以て直進し來れるものゝ如く觀じられる

然し滿洲建國後の今日、日滿兩國間に於ける經濟關係は幾多變改を加ふべき必要あり。而して兩國の永遠の繁榮を惟

ふ時、滿洲人の生活安定と其の向上促進こそ急務中の急務なりと思料さるゝに至れり
以下この理論を何故事新らしく提唱するかに就き若干の説明を爲し、且つこれが基本對策に就き検討せんとす

二、根本方策

今後滿洲國內に於て必要とする勞働力は原則として内鮮滿人を以て之が需要を充し得る様勞働力の自給自足方策を確立する必要あり

理由

(イ) 日滿兩國以外に勞銀の逃避することを極力防止し

(ロ) 滿洲人勤勞大衆の生活上と購買力の増大化とを促進せしむるため

明確なる數字的根據を缺くも、滿洲に於ける所謂滿洲人の速成勞働者の大部分は家族を郷里に置き單身入滿せる出稼勞働者にして其の期間には自ら長短あるも彼等は或時期の到來を待つて離滿するを通例とす

而して短期出稼者は其の都度、又長期に亘る者は毎年若は二年乃至三年に一度は貯蓄金を懐にして歸省するを一般とし、其の間絶へず勞銀の逃避が行はれ、従つて勤勞大衆の購買力は依然として舊態を持續す。故に前述の如く、彼等に對しては極度の賃銀搾取を行ふ事が國策上有利なりとする理論が今日迄暗に稱へられ又實行されて來たのである

然しながら滿洲建國を一轉期として、恰も内地に於ける都市對農村の關係、即ち都市の繁榮は農村購買力増加の上に立つと云ふ理論其のものを以て日滿兩國を結ぶことが絶對的必要事なりと目さるゝに至れり

これは内地に於ける失業者に對し就勞機會を與へるために間接的效果を現はすものである

滿洲人勞働者に對し、より多くの賃銀を取得せしむることは——これは單に日給四十錢の者を八十錢にしてやると云ふが如きことではない。勞働管理の合理化或は特殊事業の統制を圖ること等により、企業家の犠牲的精神の發露を俟たずして賃銀收入を増加せしめ得る方策あり、之を謂ふ——彼等の生活を向上せしむる所以であり、それ自體が内地

商工移民即ち工鑛業交通其の他の移民の入滿を更に可能ならしむる一因たるものである。

現在々滿諸企業の下に雇傭されつゝある日滿従業員の賃銀比率は大體に於て四對一、即ち日本人は滿洲人の四倍の賃銀を享けて居る。然し能率の點に於て（純筋肉労働者は別とす）日本人は滿洲人の一倍半乃至二倍の實力を有するものである。而してこの場合賃銀及能率の兩方面より見たる日滿人の差は尙約一對二の開きを有するを以て多くの企業家は採算上滿洲人を使役せんと欲するは蓋し止むを得ざるべし。

然し滿洲人の賃銀が漸騰を來し現在の二倍になりたりとせば、日滿人の能率を考慮に入れたる賃銀の差は最早や零となるべく、この場合日本人企業家の多くは自發的に従業員を内地人に置換するに至るべし。

三、要領

滿洲人勤勞大衆の購買力増加、生活程度の向上は勿論、勤勞收入の増加を前提とするものである。然し、これがためには豫め滿洲國より支那人の出稼労働者を排除し、凡ゆる産業經營者に對し滿洲國土に定着せる労働者を使役せしむる様適當の方策を講じたる後に非ざれば、單に勞働逃避を大ならしむるのみにて國策上益する所少なかるべし。支那人労働者の入滿禁止の必要は實にこの點にある。

四、前提對策

然しながら右の要領を實行するに先立ち採らなければならない重要問題は、勞働力の自給自足方策を確立することである。

自給自足方策の確立に關する主要因子としては次の五項目を擧ぐることが出来る。即ち

(イ) 支那人の出稼労働者にして滿洲國に永住の希望を有するものに對してはこれが適當の策を講ずること

家族を引纏め移住せんとするものに對しては運輸業者と協定し運賃割引の便宜を附與する等これなり

(ロ) 勞働力の需給調節に關し徹底的合理化を圖ること